

表 0.3cm

裏

1cm

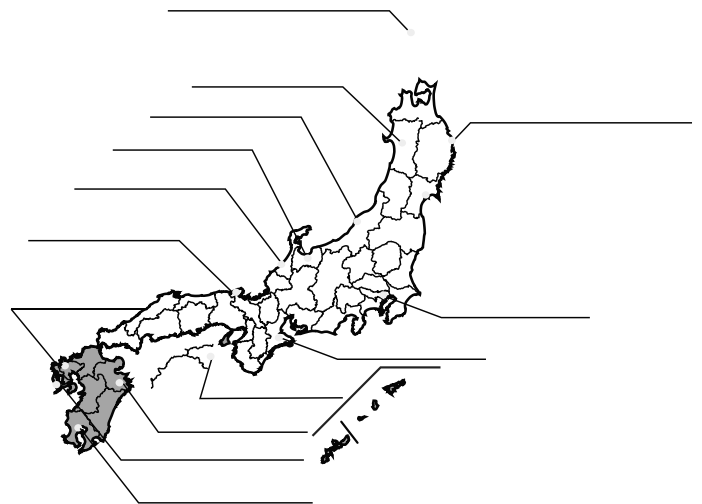
タグの形状と大きさ

タグを取り付けたアワビ稚貝



貝殻に封入されたタグ（裏側）

アワビの貝殻と一体化した状態のアバロン・タグ（表側）



アバロン・タグの用途

- ・アワビなどの産地証明とブランド化
- ・アワビなどの資源管理と種苗放流事業の効果検証
- ・アワビなどの生態調査
- ・トレーサビリティの支援

Q: アワビ以外の貝に取り付けられますか？

A: サザエ、ホタテなど様々な貝に取り付けられます。

Q: 取り付けは大変ですか？

A: アワビがはがしやすい状態であれば、初めての方でも1時間で120個前後を取り付け可能です。慣れてくると1時間で200個前後取り付けられます。専用の装着具も開発しています。

Q: アバロン・タグはICタグですか？

A: 違います。種苗放流におけるICタグの適用は、長期にわたり海中にあることと、回収率がそれほど高くないことなどから、現実的ではありません。安価で耐久性に優れた標識、それがアバロン・タグです。

アバロン・タグは海事・水産振興会の登録商標です。



タグ付きアワビが採捕されました。

アワビに取り付ける金属製の名札「アバロン・タグ」は、平成16年から販売が開始され、放流されるアワビ稚貝への取付が始まりました。

放流されたアワビの稚貝は、漁獲できるサイズに成長するまでおよそ3年間かかります。平成19年度はタグ付きアワビが漁獲されるのではないかと期待していたところ、ついに宮城県本吉郡南三陸町の歌津地区でタグ付きアワビが見つかりました。タグは旧歌津町の町章やシリアル番号も視認できる良好な状態でした。



アバロン・タグの販売と管理体制

「アバロン・タグ」は、これまで研究開発を東京海洋大学（旧東京水産大学）が、タグのシリアル番号管理と普及活動を（特非）海事・水産振興会が、タグの販売を（株）フィスコ・（社）漁村文化協会が担当するという産学連携体制を敷いてまいりました。

平成20年度からは販売についても、（特非）海事・水産振興会が担当し、販売・シリアル番号管理・普及活動を一元化することとなりました。この新たな連携体制により、技術開発と普及を加速させることができるよう努めて参ります。

なお、タグの製造は（株）飯能精密工業（埼玉県飯能市）により行われています。

私たち海事・水産振興会では刻印データを一元管理することで、刻印の重複を防ぎ、刻印の照会に速やかに対応することで、産地の皆さまの貝類のブランド化や第三者による産地偽装を防止する活動をしています。



アバロン・タグの新技术のご紹介

アワビ種苗に対するアバロン・タグの取り付けは簡単な作業です。しかし、取り付け個数が増加すると、もっと速く、より簡単に取付けることができればなあと思わずにはいられません。

そこで、東京海洋大学ではアバロン・タグの装着具を開発中です。まず、ペン型の装着具の開発により、初心者によるタグの装着性を大幅に向上しました。今後、この技術を発展させて、タグの取り付けを半自動化した装着具を開発する予定です。

また、レーザー刻印による連番化・QRコード化、流通段階でのICタグへの対応も研究中です。



アバロン・タグの専用取付け具



アワビ資源管理マニュアルを目指して

アバロン・タグはアワビへの取り付けが進んでおり、すでに多くの地域で導入されています。その実績をより有効なものとするために、現在、東京海洋大学ではアバロン・タグを利用した、アワビ資源管理マニュアルの作成を目指して研究を進めています。

このたび、三井物産環境基金の研究助成金により、平成20年度から3年間にわたりマニュアル作成の活動を行うこととなりました。資源量推定のための実践的な数理統計モデルを構築し、資源構造の特性分析、種苗放流事業の適正化、漁獲規制の具体的な提案、密漁による被害量の推定に資する「アワビ資源管理マニュアル」の策定を目指します。

アバロン・タグは海事・水産振興会の登録商標です。